

# 日本ブックデザイン賞2016

## THE JAPAN BOOK DESIGN AWARD 2016

### キーワード：

日本ブックデザイン賞  
ブックデザイン  
ブックジャケット  
グラフィックデザイン  
秋山孝ポスター美術館長岡

日本ブックデザイン賞 2016 の一般公募に、自作品 5 点を出品した。本学造形学部デジタル表現デザインコースの学生にも作品出品を促し、約 33 名の作品がエントリーした。審査の結果、学生 20 名の入選者が輩出された。また、審査会で最も気に入った一冊（「私の一冊」My Best One!）で、豊口協氏は『ごんぎつね』大村勇貴（本学造形学部生）を選出した。

## 日本ブックデザイン賞 2015



### 日本ブックデザイン賞2016展

授賞式 9月10日（土）

会 期 2016年9月4日（日）～9月24日（土）

会 場 秋山孝ポスター美術館長岡（APM）

### 〈応募部門〉

今年作品募集は、応募部門を整理し、本のジャケットだけをデザインする部門と本全体をデザインする部門に大別した。ブックジャケットは本の半型から、「ブックジャケット・四六判部門」と「ブックジャケット・文庫判部門」に分けた。この2つの部門には課題図書があり、その図書のジャケットをデザインし、印刷したもので応募する。ブックジャケットの部門は昨年と変更点はほぼない。応募部門において大きく改編したのは、「ブックデザイン・セルフパブリッシング部門」と「ブックデザイン・パブリッシング部門」と名付け、2つに分類した部門だ。「ブックデザイン・セルフパブリッシング部門」は、昨年までは「私家版カテ

グリー」という名称で設置されていた分野である。

一般の部、学生の部ごと、また応募部門別に「金の本賞」「銀の本賞」「銅の本賞」の作品を選出し、さらに全ての「金の本賞」その中からグランプリ1点が選ばれる。

### 〈応募部門〉

#### ・ブックジャケット・四六判部門

課題図書から選んだ文学作品の、四六判書籍のブックジャケットの制作。

サイズ：133×194mm（ハートカバー）

#### ・ブックジャケット・文庫判部門

課題図書から選んだ文学作品の、文庫判書籍のブックジャケットの制作。

サイズ：105×148mm（ソフトカバー）

#### ・ブックデザイン・セルフパブリッシング部門

私家版やリトルプレスなど、企画、編集、制作の行程を自ら行った自己出版の本。

サイズ：297×420mm以内

#### ・ブックデザイン・パブリッシング部門

出版社などから、既に商業出版している本。

サイズ：297×420mm以内

### 〈課題図書〉

ブックジャケット・四六判部門、文庫判部門 共通

#### ・日本文学

『高瀬舟』森鷗外

『武士の娘』杉本鉦子

#### ・海外文学

『悪の華』シャルル・ボードレール

『白鯨』ハーマン・メルヴィル

#### ・児童文学

『マッチ売りの少女』

ハンス・クリスチャン・アンデルセン

『ごんぎつね』新美南吉

〈審査員〉

- 秋山 孝  
Takashi Akiyama  
多摩美術大学 教授  
秋山孝ポスター美術館長岡 (APM) 館長  
審査委員長
- 大迫修三  
Nobumitsu Oseko  
日本グラフィックデザイナー協会 事務局長
- 太田徹也  
Tetsuya Ota  
元 武蔵野美術大学、東京藝術大学 講師
- 澤田泰廣  
Yasuhiro Sawada  
多摩美術大学 教授
- 竹内オサム  
Osamu Takeuchi  
京都嵯峨芸術大学 准教授
- 豊口 協  
Kyo Toyoguchi  
長岡造形大学 前理事長
- 中垣信夫  
Nobuo Nakagaki  
ミームデザイン学校代表

〈応募数〉

応募総計625点

一般の部

ブックジャケット・四六判部門	166点
ブックジャケット・文庫判部門	38点
ブックデザイン・セルフパブリッシング部門	34点
ブックデザイン・パブリッシング部門	46点

学生の部

ブックジャケット・四六判部門	223点
ブックジャケット・文庫判部門	145点
ブックデザイン・セルフパブリッシング部門	22点
ブックデザイン・パブリッシング部門	1点



日本ブックデザイン賞2016展 授賞式

〈My Best One!〉

日本ブックデザイン賞2016の審査員が審査会で最も気になった一冊（「私の一冊」My Best One!）で、豊口協氏は『ごんぎつね』大村勇貴（本学造形学部生）を選出した。

『日本人の心のふるさと』豊口 協

人ときつねの心の触れあい。そんな話が本になる国は、日本しかないだろう。農耕民族の代表みたいな日本人の歴史。その歴史観から生まれてくる動物達との、さまざまな触れあいの積み重ねは、すばらしい世界観、時の流れを創りあげてくれている。

十二支に、きつねの姿がないのはなぜだろう。きつね料理という言葉に耳にした事がないのはなぜだろう。

きつねは神様のおつかい。鳥居の前にやさしく、でも少し人をばかにしたような笑みを浮かべ鎮座して人を持つ、不思議な動物である。

作品にじっと眼を向けてみよう。すると、さまざまな音が聞こえてくるだろう。葉づれの音、何かが動く気配、虫の声鳥の声。

そのすべての情報を、この一枚の表紙の中に表現したいとする作者の心が強く観る人の心をうつ。きつねの表情をよくみてほしい。

さびしそうであり悲しそうであり、それでいて何かとぼけたような満足感が表現されている。裏表紙の人間の姿との対比は、なかなかのものである。作者の豊かなメッセージが込められた秀作である。（日本ブックデザイン賞2016作品集：16）



日本ブックデザイン賞2016展 審査会風景

## 本学造形学部生入選作品

### ブックジャケット・四六判部門



『悪の華』チラユ・ボンワルット

表紙は複数の画像を重ねて、ハートの形や女性の体を表現した。ただ、花をモチーフにした作品に見えないため、裏表紙に一本の花をあわらした。



『マッチ売りの少女』キム・ミンジ

雪がたくさん降ってる冬の日、物語の素材を使ってマッチ売りの少女がいる町の風景を描いた。寂しさと温かさが対照されることができるよう色で表現した。



### ブックデザイン・パブリッシング 部門



『Graphic Design of Poster』チラユ・ボンワルット

『雪月花』チラユ・ボンワルット

『禅と日本文化』チラユ・ボンワルット

## 本学造形学部生入選作品

ブックジャケット・四六判部門



『白鯨』綾部 晶

深く青い海に白鯨がいる様子をイメージして描いた。表紙にクジラの尾だけを描くことで、白鯨の大きさや謎めいた様子を表現した。



『ごんぎつね』大村勇貴 My Best One!

背景を緻密にとさせ、狐は簡略化して描くことで奥行きを感じさせつつ狐の存在感をより感じさせるようにした。物語のリアリティのある空気、日本人に親しみを持ってもらうようデザインした。



『マッチ売りの少女』綾部 晶

寒い冬、暗闇の中で少女がマッチを灯している様子をイメージして描いた。本の角から手を出すことでこちらにマッチを差し出しているような表現にした。



『ごんぎつね』小澤沙也圭

栗や松茸のみを描くことで、ごんが去った後ということを表した。また、ごんぎつねの物語の寂しさが出るようにセピア色で落ち着いた。



『高瀬舟』大平桃子

物語が始まるきっかけになった喜助の弟の死の場面が一番印象に残っていたので、刺刀と血でそのシーンを表にし、海や空で喜助の心情の変化を出しました。



『マッチ売りの少女』片山 渚

マッチ売りの少女という物語に沿うように寂しさや悲しみの中でも幸せそうな少女がいるというイメージで描いた。





『ごんぎつね』柴さつき

内容は大抵の人が知っている為、わかりやすく印象に残るようなものにしようと思い、眠っているようなごんぎつねに彼岸花を置くことで死を表現にした。



『白鯨』三浦育美

海の底から船をめがけて迫ってくる白鯨をイメージした。渦巻く荒々しい海を水彩絵具で描き、低彩度で冷たさを表現した。



『マッチ売りの少女』濱西牙月

マッチ売りの少女の希望と消えていく命の灯火を色の彩度と配置で表現した。遠のく意識やマッチ売りの少女の侘しさが伝えたいデザインにした。



『ごんぎつね』山野瑞季

本の主題を損なわない様にながら、広げた時に全体が分かる楽しさを考えながらデザインした。インパクトを保ちつつ虚しさや悲しさを失わないように心がけた。



『悪の華』原田 強

幾つもの感情のうねりが融合した目に見えないイメージを描いた。そうして心の不安は悪の華を咲かせ、感情が歪んでいく様を表現した。



日本ブックデザイン賞2016展 四六判



『悪の華』大石佳奈希

感情が交錯する様を茎が入り乱れている事で表し、退廃的で官能的な雰囲気の花をモチーフに、生と死のイメージをモノクロで表した。



『マッチ売りの少女』黒川真由

マッチ売りの少女の物悲しいイメージを出すために背景を少し暗く、そして象徴でもあるマッチに火が灯っている様子を描いた。



『ごんぎつね』大石実央

テーマは、シンプルな和テイスト。古き良き日本家屋を思わせる土壁色を背景に、切り絵風のイラストを散りばめた。



『ごんぎつね』佐藤星花

昔話でもあるので、タイトルや背表紙はレトロな雰囲気にした。イラストは絵本のような淡くて可愛くなるように描いた。



『武士の娘』小野塚香菜

武士の娘という勇ましいイメージを懐刀としてシンプルに線だけで描いた。少し上の世代に好まれるような絵と文字の配置を心がけた。



『白鯨』曾根知哉

白鯨の圧倒的な大きさをカバー全体で表現した。淡い色彩の中で、はっきりとした白のタイトルは、海の中で唯一存在する白鯨を意味している。



『マッチ売りの少女』田上晴菜

マッチの火から見えた幻を少女の夢として、マッチ箱をベッドに見立て寝かせてみた。シュールな感じを表した。



『白鯨』山下聖乃

白鯨の怖さと、海の怖さをどうしたら表現できるのか考えた時に、渦を巻く様子が不安に見えたので白鯨の周りに模様を描いた。文字はイラストに合うことを心がけ自分で作成した。



『マッチ売りの少女』辻萌香

表紙には少女がまだマッチに火を灯している時の暖かさを描き、裏にはマッチだけのもの寂しい雰囲気や少女の悲しい結末を表現した。



『白鯨』中尾風香

鯨の目のみを書くことで、人の視界には収まりきらない鯨の大きさや得体の知れない恐怖感を表現した。背景は海の青、鯨の目と題名などは白、と色使いはシンプルにまとめた。



日本ブックデザイン賞2016展 文庫判